

平成 25 年 5 月 17 日

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

アーツコミッション・ヨコハマ事業

平成24年度報告書

1 平成 24 年度の活動概要

平成 24 年度のアーツコミッション・ヨコハマ(ACY)は、アーティスト、クリエイターをつなぐ中間支援事業として、相談業務を年間 99 件受け、アーティストだけでなく、企業からの相談も増えてきています。「横浜音祭りのロゴ作成のコーディネートをはじめとし、文化観光局発行の媒体に次々と創造界隈に集積したデザイナー達の活躍の場が広がった年です。

特に 23 年度の先駆的芸術活動支援助成で採択した ITOON 作の短編アニメーション映画「Harbor Tale」がチェコのズリーン国際映画祭アニメーション部門で最優秀賞と観客賞を始めとし、数多くの賞を受賞しました。この助成制度の成果と考えています。

また、関内外 OPEN4! の参加スタジオ・事務所が 198 組を数え、2009 年開始当初比 580%増(昨年比 170%増)となっています。アーティスト、クリエイターの集積が年を追うごとに成果として表れています。

次段階として、これら創造的な集積コンテンツを「まちづくり」、「産業振興」へ繋げていくことが横浜市から求められています。24 年度は、その準備段階として産業等へ繋ぐ際のキーマンと成り得るデザイナーや業界団体、支援団体との連携事業を行い、関係を深めました。

2 平成 24 年度の成果

(1)相談・コーディネート業務「ホスピタリティの発揮」

99 件の相談を受けました。主だった相談の内容として、横浜における拠点形成のご相談が多く、全体の 40%を占めます。しかも、これまでテナント候補の相談が大多数でしたが、オーナー候補からの相談も増えてきています。また、企業がデザイナーを紹介して欲しいという相談、大学の拠点移転の相談など、一個人の企画というより、街全体に関わる相談が増えてきています。今後の ACY の活動の幅が広がりを感じさせる 1 年でした。

(2)創造活動支援「横浜の魅力創造と市民生活を繋げる」

①先駆的な芸術活動を支援し、多くの市民へ最先端の芸術鑑賞機会を提供

「先駆的芸術活動支援助成」は、野外でのコンテンポラリーダンス公演や 1 か月のロングラン公演など全 11 企画が実現しました。入場者数は全企画で 3790 名を数えました。過去に助成をしている団体が、横浜文化賞の受賞や海外のフェスティバルの受賞という成果も上げており、横浜でキャリア形成していくための制度として機能しています。

【平成 24 年度先駆的芸術活動支援助成採択事業】



Co.山田うん『ショーメン』野外版



加藤直輝『Sonic Road Movie YOKOHAMA!』(映画)

「TPAMinYOKOHAMA2013」は、総来場数累計が24,107名(前年度約15,845名。150%増)となったほか、市民ボランティアは過去3年間で初めて100名を超えました(ともにPARC報告)。ここでの発表を機に初の海外招聘公演を決めた劇団もあり、日本人アーティストを売り込む場としても機能しています。



ネットワークミーティング風景@YCC



フォレストFRINGE風景@BankART

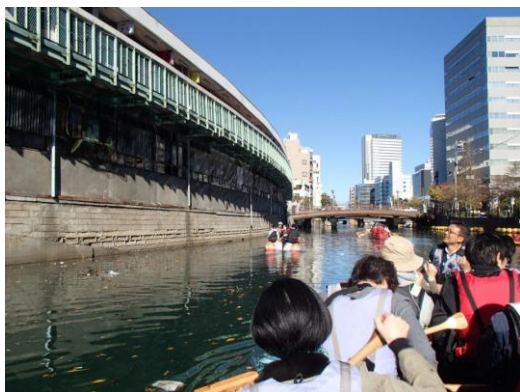
総じて、今年度は「Dance Dance Dance@YOKOHAMA 2012」の開催年にふさわしく、舞台芸術の成果が顕著でした。市民に多くの芸術の鑑賞機会および協働機会を提供することができました。

また、ST スポット、急な坂スタジオ、十六夜吉田町スタジオ、赤レンガ倉庫1号館、KAAT等が独自のプログラムやこれらTPAMやACYの助成制度を活用し、キャリアに併せたアーティスト支援を行うことで、アーティストの発掘・育成・発信の環境が確実に良い方向に変化している実感を得ています。

②アートの社会的役割の拡張

今年度より始めました「都市文化創造支援助成」を通じて多様な地域社会と芸術文化との関係を構築しました。横浜の未利用の水辺空間を市民運営により活性化させるプログラムや、アジアの作家との交流により若葉町の多文化共生地域と震災後の日本をリサーチしたプログラム、寿町周辺地区において地域資源を活用した居住環境改善をデザイナーと協働するプログラム、お稽古場を軸に地域のコミュニティ形成を図るプログラムの4つが採択されました。いずれも芸術文化の社会的役割を拡張させる貴重な提案となりました。

【平成24年度都市文化創造支援助成採択事業】



水辺荘 大岡川のツアー風景



コラボ HANARE プロジェクトの室

③都心部地域の魅力を発信

WEB 媒体「アートウェブマガジン ヨコハマ創造界限」をリニューアル発行しました。高いデザイン性と「創造」を広義に捉えた食の情報、地場産業活動を取り込むことにより、アクセス数の向上を達成しました。リニューアル後年後合計トップページアクセス数 25,590 件。(前年度 5,658 件。450%増)。合計ページビュー数 241,484 件(前年データなし)。また創造界限メールニュースを毎月 2 回、2569 名(平成 25 年 3 月 31 日現在)に発行しています。

「OPEN YOKOHAMA2012」キャンペーンを実施(実行委員会形式)。創造都市やアートに関心の薄い層に向けて親しみやすい内容で、手に取る媒体(冊子)やウェブサイトを作成。冊子は主要駅等に配布し、間口を拡げ認知度拡大を図りました。

* OPEN YOKOHAMA は、アーツコミッション補助事業とは別予算で実施。

但し、創造都市のプロモーションを目的にアーツコミッションの担当が実施したため、本報告書に記載。決算には記載していません。

【媒体配布部数/アクセス数】

OPEN YOKOHAMA ガイドブック 100,000 部配布

OPEN YOKOHAMA ウェブサイト ページビュー数 368,678 件/123 日間

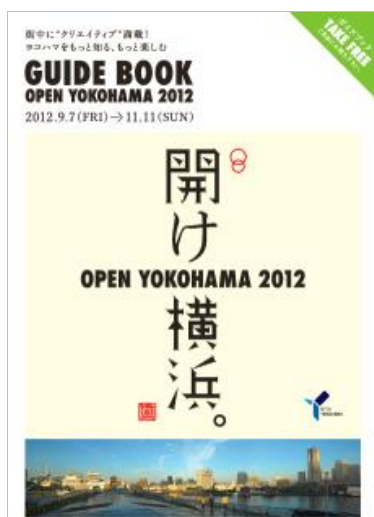
【OPEN YOKOHAMA アンケート結果】

Q. 「創造都市」という言葉を知っていましたか？(有効回答数 1,133 名)

A. 知っていた 22.8% 知らない 77.2%

Q. 「OPEN YOKOHAMA2012」を通して「創造都市」に対する理解は深まりましたか？(有効回答数 1,107 名)

A. 深まった+やや深まった 70.1%



OPEN YOKOHAMA ガイドブック



ヨコハマ創造界限 WEB マガジン

④次世代を担う人材の育成

横浜市内で開催される卒業修了展の広報支援を実施しました。4 年目にあたる今年にはウェブサイト主体の情報発信ながら、毎年この情報を楽しみにしているお客様からのご要望をいただくなど、横浜が卒展の地であることの認識の定着が見られました。都心部 7 会場 32 展覧会の情報を告知しました。

また、まちづくりやアートマネジメントを担う若手人材の育成として、関内外 OPEN!でインターンの受け入れを行いました。

(3) 創造まちづくり支援「交流人口を増加させるコンテンツの開発」

① 交流人口増加を目指した創造的なまちづくりの推進

横浜市と協働でドックヤードガーデン(国登録重要文化財)の一部を創造的活動拠点に転用すべく、調査を行いました。みなとみらい地区に創造的拠点を拡大させ、地域内の企業市民が交流する場や、企業とクリエイターがマッチングする場として機能させ、みなとみらい 21 地区の新たなまちづくりの顔の形成に向けた提案を行いました。

また、関内・関外地区の建物所有者からの相談も増加傾向にあります。芸術不動産を第二段階へ進めるべく、平成 25 年度「芸術不動産リノベーション助成」の助成制度を改正するために調査を行い、アーティスト・クリエイター等の場所づくりのみならず、彼らを軸とした産業振興、まちづくりに繋がる制度に変更しました。

「クリエイター・アーティスト等のための事務所等開設支援助成」は、申請数 13 件、申請面積 785 ㎡(前年度 11 件、面積 401 ㎡)で、昨年に比べ申請面積が大幅に増えました。

② クリエイティブ・クラスター形成

「関内外 OPEN!4」は、過去最高の 198 組(前年度 113 組、170%増)の参加を数えました。創造産業のビジネスマッチングの場を目的としたプラットフォーム事業の形成まで出来ていませんが、同イベントに参加していた建築家が、オープンスタジオを訪れたお客様から発注を受けるなど、少しずつ産業的な成果も見え始めています。



オープンスタジオ風景



デザインピッチ風景

③ 産業振興の協業体制づくり

具体的な連携プログラムとして、都市整備局が初期支援した mass×mass 関内フューチャーセンターと並び主催で「my home town わたしのマチオモイ帖」を実施しました。関東一都六県+山梨県のデザイナーの発表の場を提供し、社会起業家を招いたシンポジウムを開催しました。

また、創造産業調査において外部の成功事例の調査と共に、経済局へのヒアリングを行い、今後の産業振興の役割の確認を行いました。



トーク風景



展示風景

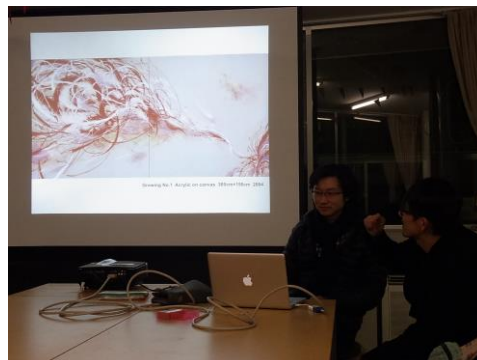
(4)国際的な文化交流の促進「アジアから横浜へ、横浜からアジアへ」

日本で初めてとなる中国・成都市のアーティスト・イン・レジデンス交流事業を始めました。これに併せて、アジアと横浜間のレジデンスプログラムの情報をまとめて発信するサイトを黄金町エリアマネジメントセンターと協力の上、作成しました。アーティストの視点を通じて各都市を紹介していきます。

また、BankART1929 と共催で 8 回目を数える台北市とのレジデンス交流事業を開催しました。レジデンス専門施設を持たない横浜市ですが、創造界隈拠点を中心としたレジデンスプログラムは、東京に迫る勢いでかつ独自性を持って行われており、実績十分なため、後は発信力の強化が期待されています。



台北市・横浜市 ロ・イチュン展示風景



横浜市・成都市 リージェ発表風景

(5)事業評価と政策提言

今年度は、事業評価の実践として、第一に交付者への評価を深めています。各助成制度で、交付者へのヒアリング(事前・事後)、本番レポートを実施しました。これを内部的な評価とし次年度の審査に向けた資料としています。また、次年度に向け、助成評価委員会構想の策定、専従職員にプログラムオフィサーの肩書を付与しました。政策提言は、次年度以降の助成評価委員会で行う予定の ACY 助成制度の自己評価分析を通じて、横浜市へ平成 26 年度助成制度の提案を行います。

(6)その他:職員の講演実績

①アロットメント主催

「アーティストの制作環境を考える

- 日本の9事例とロンドンの非営利団体 ACME(アクメ)」

日時:平成 24 年 12 月 1 日(土) 会場:3331 アーツ千代田

②札幌市、北海道教育大学岩見沢校

創造都市さっぽろ・国際芸術実行委員会主催

「アートセンターのためのサロントーク なぜ、アートが都市をゆたかにするのか。

- アーティストが創り出すクリエイティブシティ・ヨコハマ」

日時:平成 25 年 1 月 25 日(金) 会場:北海道教育大学札幌駅前サテライト

3 実施事業の概要

(1) 相談・コーディネート業務

横浜の創造的活動に関する窓口相談を行いました。活動拠点探し、助成金に関する相談、会場探しから人材紹介まで、横浜で活動を始めようとする人が気軽に利用できる窓口として、常設で随時相談を受け付けました。
相談件数：99件(内訳：拠点形成40、企画相談27、広報4、視察10、助成5、調査7、その他6)
場所：ヨコハマ創造都市センター2階 ACY ラウンジ、他

(2) 創造活動支援

① 先駆的な芸術活動を支援し、市民へ最先端の芸術鑑賞機会を提供

【ACY助成】先駆的芸術活動支援助成

アーティストやクリエイター、アート団体が作品の制作や発表を行うための経費の一部として助成金を交付しました。芸術やデザイン等の分野にて、横浜で行われる先駆的な表現を追求する創造活動を支援するとともに、多様なアートに触れる機会を横浜市民に提供することを目的としています。	
募集期間	平成24年3月～平成24年4月20日
申請件数	65件
交付実績	採択件数11件 10,000,000円
審査員	樽沼 範久(横浜国立大学都市イノベーション学府・研究員 准教授) 久野 敦子(公益財団法人セゾン文化財団プログラムディレクター) 天野太郎(横浜美術館 主席学芸員)

【交付事業一覧】

NO	申請者名	事業名	交付額
1	NPO 法人ドリフターズ・インターナショナル	ドリフターズ・サマースクール 2012	1,000,000
2	藤本隆行	「赤を見る/Seeing Red」	1,000,000
3	blanClass 小林晴夫	blanClass-Live ART&Archives blanClass+product	1,000,000
4	加藤直輝	Sonic Road Movie YOKOHAMA!	1,100,000
5	悪魔のしるし 危口統之	Twisted dead tree 倒木凶鑑	1,000,000
6	Co. 山田うん	Co. 山田うん『ショーメン』野外公演	1,500,000
7	Contact Gonzo 塚原悠也	Abstract Life 《世界の仕組み／肉体の条件》	1,000,000
8	横浜舞台芸術応援隊 実行委員会 高橋マミ	イテビアン・クルー「涙目コーデュロイ」	1,500,000
9	nottDance 白神ももこ	nottDance	300,000
10	長内裕美	dancedouble#1	300,000
11	中村達哉	そこから眺める	300,000

【交付事業内容】

No.1	NPO 法人ドリフターズ・インターナショナル	実施日	平成 24 年 9 月 28 日、29 日、30 日
事業名	ドリフターズ・サマースクール 2012 公演「NO FUTURE / YES FUTURE」		
会場	象の鼻テラス		
内容	平成 24 年 7 月～9 月にかけて行われたドリフターズ・サマースクール(森下スタジオ※本助成対象外)の最終成果発表公演。ダンス、建築・空間美術、ファッション、宣伝・制作コースにて、実際に活躍中のアーティスト・クリエイターが務める講師のもとで学んだ受講生が、成果発表として作品を制作、象の鼻テラスを会場に発表しました。		

No.2	藤本隆行	実施日	平成 24 年 12 月 10 日～21 日
事業名	赤を見る/Seeing Red クリエーション+公演		
会場	ハンマーヘッドスタジオ「新・港区」		
内容	LED 照明を用いた舞台作品やインスタレーションで知られる藤本隆行と韓国の振付家・ダンサー・俳優であるチョン・ヨンドウの共同制作による舞台作品をハンマーヘッドスタジオ「新・港区」にて上演。なお、本作は進化心理学者ニコラス・ハンフリーの著作「赤を見るー感覚の進化と意識の存在理由ー」に着想を得たものです。		

No.3	blanClas 小林晴夫	実施日	平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
事業名	blanClass-Live ART&Archives blanClass+product		
会場	ブランクラス(横浜市南区南太田 4-12-16-2F)		
内容	毎週土曜日のワンナイトイベント+公開インタビュー。Live Art とは、ワンナイトで完結することであれば、どんなことでもありのアートイベント。多ジャンルのアーティストが続々登場し、年間を通じて活動を行いました。		

No.4	加藤直輝	実施日	平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 3 月 23 日 ライブパフォーマンス 平成 25 年 1 月 19 日 映画上映会 平成 25 年 3 月 23 日
事業名	Sonic Road Movie YOKOHAMA!		
会場	横浜市内各所(撮影)、赤レンガパーク(ライブイベント)、 東京芸術大学大学院映像研究科(作品上映)		
内容	横浜を舞台とする音楽ライブ及び映画製作企画。”Space is Howling”と題して赤レンガパークを舞台にサイトスペシフィックなライブパフォーマンスを開催。このイベントを撮影記録し、物語と共に再構成した映画作品を制作、上映。		

No.5	悪魔のしるし 危口統之	実施日	平成 24 年 9 月 27 日～30 日
事業名	Twisted dead tree 倒木凶鑑		
会場	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ		
内容	悪魔のしるし主宰・演出の危口統之を中心とし、「KAFE9」の掲げる同時代の先鋭的な演劇を発表すべく、出演者をオーディションで選出し公演を制作。新作「倒木凶鑑」として上演しました。4 日間 5 回公演。広報媒体として、「週刊倒木凶鑑」を発刊(全 9 回)。		

No.6	Co. 山田うん	実施日	平成 24 年 9 月 8 日、9 日
事業名	Co. 山田うん『ショーメン』野外公演		
会場	KAAT 神奈川芸術劇場アトリウム→山下公園→氷川丸船上デッキ		
内容	ダンスカンパニーCo.山田うんの代表作、360度あらゆる角度からの観客視線に耐えうる自由な発想によるダンス作品「ショーメン」(2010初演)を、横浜のシンボリック観光スポットや街中を背景に、野外版として再演しました。		

No.7	Contact Gonzo 塚原悠也	実施日	平成 24 年 9 月 20 日～23 日
事業名	新作公演 Abstract Life 《世界の仕組み／肉体の条件》		
会場	KAAT 神奈川劇場 大スタジオ		
内容	肉体不在の肉体論、音響とイメージによる contact Gonzo 版「世界の仕組み」総論。Contact Gonzo が基軸としてきた身体と身体によるぶつかり合いのコンタクト・インプロビゼーションから飛躍した新たな形のサウンドパフォーマンスを創作し、KAAT 神奈川劇場大スタジオにて、公演として発表しました		

No.8	横浜舞台芸術応援隊 実行委員会 高橋マミ	実施日	平成 24 年 9 月 1 日～9 月 29 日
事業名	十六夜吉田町スタジオオープニング公演 イデビアン・クルー新作「涙目コーデュロイ」		
会場	十六夜 吉田町スタジオ		
内容	中区吉田町に平成 24 年 9 月 1 日に新しくオープンしたアトスペース「十六夜 吉田町スタジオ」のこけら落とし公演として、振付家：井手茂太率いる「イデビアン・クルー」の新作公演を行った。コンテンポラリーダンス界では異例の1カ月25 ステージのロングランを達成しました。		

No.9	nottDance 白神ももこ	実施日	平成 24 年 9 月 22 日
事業名	nottDance		
会場	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ・小スタジオ		
内容	振付家・演出家である白神ももこが、ディレクションに挑戦。1980 年代生まれの若手振付家4名が、普段は交流が少ないアーティストとともにダンス作品を制作し、KAAT 神奈川芸術劇場を会場に発表しました。		

No.10	長内裕美	実施日	平成 24 年 9 月 14 日、15 日
事業名	dancedouble#1		
会場	ヨコハマ創造都市センター／横浜赤レンガ倉庫 1 号館		
内容	コンテンポラリーダンサーである長内裕美が、田中恵美理とともに一般向けのワークショップ及び自身の振付によるダンス公演を行ないました。舞台監督 22 歳(日本大学芸術学部)、音響スタッフ 24 歳、制作スタッフ 24 歳と若手のチームワークにより制作・公演を実現しました。		

No.11	中村達哉	実施日	平成 24 年 10 月 13 日・14 日ワークショップ 平成 25 年 2 月 14 日・15 日公演
事業名	中村達哉「そこから眺める」		
会場	急な坂スタジオ、ST スポット		
内容	ST スポットから生まれた「ヨコラボ」の発展企画。BankART レジデンスアーティスト参加、急な坂スタジオワークショップ「うごきを形にする」開催、稽古場公開と新作「そこから眺める」のダンス公演を行ないました。		

国際舞台芸術ミーティング in 横浜(TPAM in Yokohama 2013)

<p>演劇・ダンス・音楽などの舞台芸術作品の国内外での普及と関係者の交流の促進を目的に、舞台芸術関係者のネットワークとプレゼンテーションの場として、都心臨海部の各所で開催しました。財団として実行委員会に参画し、ACY 事業費から負担金を支出し、ヨコハマ創造都市センターを主会場の一つとして提供しました。また、プリティッシュ・カウンシルの要請で、「フォレスト・フリンジ」を急な坂スタジオ他と共催で開催しました。</p>	
会期	平成 25 年 2 月 9 日(土)～2 月 17 日(日)
会場	ヨコハマ創造都市センター(YCC)、KAAT 神奈川芸術劇場、BankART Studio NYK、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、他
プログラム	若手制作者をディレクターに選任して行う『TPAM ディレクション』、日本やフランス、イギリス、カナダ、トルコ、シンガポールなど世界各地のプロジェクトを紹介する『インターナショナル・ショーケース』および『TPAM ディレクション Plus』、さらに『TPAM』期間中に横浜・東京エリアで行われる公演を紹介する公募制の『TPAM ショーケース』。
参加作品	<p>☆『TPAM ディレクション』</p> <p>■[小倉由佳子ディレクション]</p> <p>○Nadegata Instant Party(中崎透+山城大督+野田智子)</p> <p>『エキストラ・カーテンコール』</p> <p>○きたまり/KIKIKIKIKIKI『戯舞』</p> <p>○劇団子供鉅人『Where is crocodile?』</p> <p>■[大平勝弘ディレクション]</p> <p>○大橋可也</p> <p>『WAGASHI — my master, my words, my death, my will』</p> <p>○村川拓也『ツァイトゲーバー』</p> <p>○篠田千明『ぼ や っ と す る(まぬけ)』</p> <p>■[宮永琢生ディレクション]</p> <p>○杉原邦生『1/2PA ナイツ!?』</p> <p>☆『インターナショナル・ショーケース』</p> <p>○アイディン・テキヤル×河崎純</p> <p>『db-II-bass — 音、身体、楽器』</p> <p>○青年団国際演劇交流プロジェクト 2012 フィリップ・ケーン企画／</p> <p>ヴィヴァリウム・ステュディオ</p> <p>『Anamorphosis アナモルフォーシス』</p> <p>○フォレスト・フリンジ at TPAM『Playing with Cities』</p> <p>○エヴァン・ウェッパ & フランク・コックス＝オコネル『リトル・イリアッド』</p> <p>○モー・ル・プラデック『Professor』</p> <p>○ダニエル・コック『Q&A』</p> <p>☆『TPAM ディレクション Plus』</p> <p>○セブン・フィンガーズ『ロフト』</p> <p>○FrenchMottershead、マシュー・モリス、アイラ・ブランド、危口統之</p> <p>『Rules and Regs with ST Spot』</p> <p>○クリウイムバアニー、contact Gonzo、天野タケル、池永正二『EPPA — the encounter with provocative performing arts presented by LUFTZUG』</p> <p>○マームとジプシー『あ、ストレンジャー』</p> <p>○岡田利規×ピッグアイロン・シアターカンパニー</p>

	<p>『ゼロコストハウス』</p> <p>○KENTARO!!『横浜ダンスコレクション EX 受賞者公演』 きたまり、白井剛、ほうほう堂、向雲太郎、神村恵、 鈴○木ユキオほか『DANCE TRUCK PROJECT vol.2』</p> <p>○富士山アネット『シャウレイの十字架』</p> <p>○アンティエ・グライエ＝リパッティ(AGF)『Gedichterbe サウンド・ポエトリー ドイツ 詩と歌の遺産』</p> <p>○『トヨタ コレオグラフィーアワード トーク&ショーイング』</p> <p>○日本ー 韓国ダンス交流プロジェクト 横浜ダンスコレクション×ソウルダンスコレクション『Dance Connection』</p> <p>☆『TPAM ショーケース』</p> <p>○Q『いのちのち Q』</p> <p>○バストリオ『点滅、発光体、フリー』</p> <p>○東葛スポーツ『ドッグヴィル』</p> <p>○ももいろぞうさん『ももいろぞうさん ランチショー2013』</p> <p>○カンパニーデラシネラ『異邦人』</p> <p>○ミクニヤナイハラプロジェクト『静かな一日』</p> <p>○中村達哉『そこから眺める』</p> <p>○劇団鹿殺し『BONE SONGS』</p> <p>○んまつーポス 『んまつーポス+宮崎大学～そうなるまでの事情 vol.1～』</p> <p>○86B210『Through The Keyhole』</p> <p>○岡崎藝術座『隣人ジミーの不在』</p>
来場者数	のべ 24,107 名
ボランティア数	100 名
主催(運営組織)	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2013 実行委員会(国際交流基金、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、国際舞台芸術交流センター)
協力	BankART1929、象の鼻テラス、ST スポット、急な坂スタジオ、有限会社ネビュラエクストラサポート(Next)、黄金町エリアマネジメントセンター、株式会社アイ・ティー・シー・エー(三本コーヒーグループ)
後援	横浜市、神奈川県
助成	公益財団法人ポーラ美術振興財団
協賛	株式会社野毛印刷社、株式会社横浜ビール
提携事業	舞台芸術制作者ネットワーク・ミーティング

②アートのための社会的役割の拡張

【ACY助成】都市文化創造支援助成

<p>アーティストやクリエイター等が横浜ならではの都市文化を形成することを目的に行う活動を支援しました。アーティストが都市を調査して探し出した空間や環境を使うことで、新たな発見を街にもたらずプログラムや、“ものづくり”ではなく、“ことづくり”のような表現活動の幅を広げることで、都市における芸術や創造力の役割を拡張させていくプログラムを対象とします。</p>	
募集締切日	平成 25 年 5 月 7 日
申請件数	16 件
交付実績	採択件数 4 件 5,000,000 円
審査員	大澤 寅雄(株式会社ニッセイ基礎研究所) 芹沢 高志(P3 art and environment) 若林 朋子(社団法人企業メセナ協議会 シニア・プロジェクトマネージャー)

【交付事業一覧】

NO	申請者名	事業名	交付額
1	ライフアートユニオン ひと&ひと	お稽古場から地域活性化！ 「ハマげいこ」プロジェクト	1,000,000
2	コレヨコ水辺班	横浜棧橋文化育成プログラム	1,000,000
3	コトラボ合同会社	地域資源を活用した住環境の改善プロジェクト —クリエイティビティを活用したポジティブマインド 構築プロジェクト	1,500,000
4	ART LAB OVA スズキクリ・蔭山ツル	311 東北～若葉町～アジア	1,500,000

【交付事業内容】

No.1	ライフアートユニオン ひと&ひと	実施日	平成 25 年 2 月 1 日～3 月 31 日
事業名	お稽古場から地域活性化！「ハマげいこ」プロジェクト		
場所	横浜市内のお稽古場各所、三溪園、横浜にぎわい座野毛シャーレ、他		
内容	<p>稽古場の横の繋がり、市民との縦の繋がりをつくり、地域文化の再生と活性化を促進しました。日本伝統のお稽古文化のネットワークを拡充させ、横浜の文化の特色を存分に受け入れ、地域に根差した独自の文化を創造することを目的。</p> <p>①稽古情報誌「ケイコ場えきすぶれす」発刊と無料配布 ②稽古情報システム「ネット DE ハマげいこ」ウェブ公開 ③「お師匠さんミーティング」開催。町のお師匠さんの交流会・稽古場ネットワーク促進 ④お稽古体験会・ワークショップ開催「ケイコ場とれいん」開催 ⑤お稽古まつり「ハマとら祭り」開催 ⑥お稽古ネットワークを利用した横浜独自の文化創造(コンサート企画等) ⑦おもしろ邦楽セミナー(市内 10 校の小学校参加邦楽体験イベント) ⑧落語観劇ツアー(「鹿芝居」の鑑賞と研究会)</p>		

No.2	コレヨコ水辺班	実施日	平成 24 年 8 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
事業名	横浜栈橋文化育成プログラム		
場所	大岡川桜栈橋、蒔田公園栈橋、弁天橋ボートウォーク栈橋、帷子川防災栈橋		
内容	<p>大岡川桜栈橋と横浜駅西口運河に設置された社会実験用栈橋の新旧 2 つの異なる性格の栈橋を軸に、広く市民に開かれたプログラムを開催。旧運河を利用したアクティビティーを実行して、水面利用を活性化させ港湾都市横浜のブランド再構築につなげる目的です。スタンドアップパドル(SUP)、カヤック、E-BOATを中心に都市型リサーチクルーズ及びアートやソーシャルビジネスを絡めたアクションクルーズプログラムを継続的に実施、「水辺から都市を考える」文化的基盤のビジョンを提示しました。横浜市都市整備局、西区役所、横浜中央卸売市場、川の駅実行委員会等、多様な地域のセクターとの連携で事業は実施されています。</p>		

No.3	コトラボ合同会社	実施日	平成 24 年 11 月 竣工
事業名	地域資源を活用した住環境の改善プロジェクト ークリエイティビティを活用したポジティブマインド構築プロジェクト		
場所	横浜寿町周辺地域(横浜市南区中村町)		
内容	<p>社会復帰を志す寿町の住民の自立を包括的にサポートする拠点として、居住・生活・就労環境をサポートする事業を行いました。空き部屋となっていた空間をクリエイターやアーティストの創造力により快適な生活環境へと変貌させ、住まいへの意欲の向上を狙うものです。また、社会包括的コミュニティを備えた生活・就労環境とも繋げることで、より快適な生活を求める「欲求」を創り、社会復帰へのポジティブな意識の向上へつなげる。クリエイティブな空間の力がもたらす社会問題への可能性を探る目的で実施しています。具体的には、南区中村町にあるアパートの 4 室を改装し、NPO さなぎたちから紹介された社会復帰を目指す個人に貸出。あわせて、就労環境づくりも実施しました。今年度の事業が中区役所に評価され、次年度の共同の取り組みが決定しました。</p>		

No.4	ART LAB OVA	実施日	平成 24 年 7 月 1 日～平成 25 年 1 月 31 日
事業名	311 東北～若葉町～アジア		
会場	横浜パラダイス会館、仁川、ナムチャイ、J's ストア、皇膳門		
内容	<p>横浜若葉町と東北被災地と中国、タイ、韓国を横断する企画です。7月上旬に申請者が現地東北のアーティストの手を借りて、東北被災地の同国籍被災者を訪問し事業協力を呼びかけました。11 月はじめに若葉町の外国籍住人と同郷である中国、タイ、韓国の 3 か国からアーティストを招聘し、横浜の状況を知ってもらった上で、東北で被災した同郷人や現地アーティストにインタビューしました。11 月上旬に横浜に戻り、公開ミーティング・公開制作を進め、若葉町飲食店で展覧会、東北からゲストを招いてシンポジウム開催しました。</p>		

③都心部地域の魅力を発信

創造界限プロモーション

A. WEB マガジン「ヨコハマ創造界限」

発行 3 年目となった今年度はデザイン・コンテンツともにリニューアルを行い、デザイン性と「創造」を広義に捉えた食の情報、地場産業活動を取り込んだコンテンツにより、アクセス数の向上を達成しました。またライターやカメラマンに若手の人材を起用するなど運営面でも若手アーティストやクリエイターの巻き込みを行いました。	
発行日	偶数月 25 日
内容	創造界限で活動する人材のインタビュー、地元企業の紹介、横浜都心部のアートスペース紹介等
アクセス数	トップページアクセス数 25,590 件。(前年度 5,658 件。450%増)。合計ページビュー数 241,484 件(前年データなし)
SNS	ツイッター(sozokaiwai_ycc)フォロワー1313 名(3 月末)

B.メールニュース「ヨコハマ創造界限」

創造界限の情報を登録者に向けて定期配信を行いました。メール開封率等の集計を取り、開封されやすい時間帯に配信するなどの工夫を行いました。	
発行日	毎月第 2・第 4 金曜日
内容	創造界限拠点やその他創造都市関連の活動情報の配信
登録数	2569 名

C.キャンペーン「OPEN YOKOHAMA 2012」

平成 24 年 9 月～11 月の間、期間限定の都市プロモーションキャンペーンとして実施しました。3 年目となった今年度は、総花的でターゲットが見えにくい等の課題に対応し、これまでの一般層に向けた(芸術に偏りすぎない)間口の広さを保ちながらも「創造都市政策」の取組周知をコンセプトにウェブサイト、無料ガイドブック等の制作と配布を行いました。	
実施時期	平成 24 年 9 月 7 日(金)～11 月 11 日(日) プレ期間:平成 24 年 7 月 20 日(金)～9 月 6 日(木)
内容	関内・関外地区およびその周辺地区(野毛、初黄・日ノ出町、石川町)、元町・山手、みなとみらい、横浜駅周辺地区のプロモーション(キャンペーン)
制作物	ガイドブック 100,000 部 ポスター B3～B1 4C 計 11,050 部 ウェブサイト 368,678PV Facebook 1,374 いいね twitter 3,418 フォロワー
展開	○ガイドブック 配布箇所 690 以上 (鉄道各駅、主要駅に主催側で設置したインフォデスク、役所、文化移設、宿泊施設、商業施設等) ○ポスター 掲出箇所 780 以上 (鉄道各駅、当)

パブリシティ	<p>○広告出稿 雑誌、フリー情報誌、WEB で展開(OZ、CINRA 等) ○メディア掲載 38 回(新聞、フリー情報誌、WEB、放送等)</p>
主催プログラム	<p>○横浜市庁舎特別展示 曾谷朝絵《みずのわ》 会期:9 月 7 日~11 月 11 日 場所:横浜市庁舎ロビー 協賛:株式会社アダチ、株式会社カネカ、 田島テクニカ株式会社、株式会社丹青社</p> <p>○横浜中央図書館×急な坂スタジオ もび 《オーケストラ・ライブラリー》 日程:9 月 8 日 会場:急な坂スタジオ 主催:急な坂スタジオ 共催:OPEN YOKOHAMA 実行委員会 協力:横浜中央図書館</p> <p>○アートスタンプラリー 会期:9 月 7 日~11 月 11 日 スタンプポイント 文化施設・イベント各所(23 ポイント)</p> <p>○ツアー 創造界隈を巡るツアーを 3 回開催。</p>
運営	<p>OPEN YOKOHAMA 実行委員会 (事務局:横浜市芸術文化振興財団)</p>

D.駅構内創造都市プロモーション

<p>みなとみらい線馬車道駅改札前の円柱を利用し、文化芸術創造都市・横浜関連の専用ポスター掲出スペースを設置。平成 24 年度以降、YCC での催事を中心に近隣の創造界隈施設の事業 PR の場として活用を開始しました。</p>	
設置期間	平成 24 年 12 月 21 日より
内容	創造都市関係企画のポスター掲出
協力	横浜高速鉄道株式会社

E.創造都市政策の過去データの集約

<p>2003 年に開始された横浜市の創造都市政策を振り返り、この 10 年の取組と成果をまとめた報告書を作成しました。今後、本報告書を資料に創造都市紹介コンテンツを制作することを予定しています。(冊子、ウェブサイト等)</p>
--

④次世代を担う人材の育成

1月～3月に横浜都心臨海部で集中的に行われる美術・建築・デザイン系の卒業展覧会のWEBで紹介し応援しました。また、ACY主催事業(関内外 OPEN!)でインターンの受入を公募で行いました。	
内容	アーツコミッション・ヨコハマのホームページにて、都心部 7 会場(東京藝術大学、ヨコハマ創造都市センター、横浜赤レンガ倉庫1号館、BankART Studio NYK、横浜市民ギャラリー、岩崎博物館、みなとみらいギャラリー)にて 32 卒業展覧会(美術系、建築の大学、専門学校)の情報を告知しました。また、SNS での紹介も行っています。

(3)創造まちづくり支援

①交流人口増加を目指した創造的なまちづくりの推進

【ACY助成】クリエイター・アーティストのための事務所等開設支援助成

横浜市都心部の活性化と創造的産業の振興を目的とする助成事業。関内・関外地区の既存の民間建築物に、新規もしくは増床を伴う移転で、事務所、スタジオ、ギャラリー等を設置するクリエイター・アーティスト等に対し助成金を交付しました。	
募集締切日	平成 25 年 1 月 11 日
申請件数	13 件(1,1430,000 円分)
交付実績	採択件数 13 件 7,998,000 円(約 30%按分して減額) 交付面積 785.4 m ²
審査員	大堀 剛(横浜市文化観光局創造都市推進課創造まちづくり担当課長) 松井 美鈴(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団グループ長)

【交付実績】

NO	申請者名	業種	交付額
1	株式会社エムジーアーツ	ギャラリー	512,000
2	株式会社ライブドキュメンタリー	映像制作	210,000
3	株式会社高橋一平建築事務所	建築デザイン	389,000
4	造設計スタジオ	建築デザイン	187,000
5	ユー・エス・エム株式会社	ファッションデザイン	489,000
6	NOSIGNER	デザイン全般	989,000
7	NPO 法人アークシップ	アート NPO	1,400,000
8	一級建築士事務所秋山立花	建築デザイン	1,033,000
9	有限会社プレイヤーズソウル	音楽	176,000
10	吉松章	舞台芸術	520,000
11	NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ	情報系 NPO	1,400,000
12	横浜デザインプロダクション	グラフィックデザイン	350,000
13	デザインポート	建築デザイン	343,000

【ACY助成】芸術不動産リノベーション助成

創造の担い手の集積しやすい環境を整備し、地区の活性化および創造産業の振興を図ることを目的に、関内・関外地区の建築物をアーティスト・クリエイター等の活動拠点に転用する際の改修(リノベーション)に対して助成金を交付しました。	
募集締切日	平成 24 年 12 月 26 日
申請件数	1 件
交付実績	採択件数 1 件 10,000,000 円
審査員	竹内 昌義(建築家、東北芸術工科大学教授 建築・環境デザイン学科教授) 林 充之(YMG 会計 代表) 遠藤 新(工学院大学建築学部 准教授) 大堀 剛(横浜市文化観光局創造都市推進課創造まちづくり担当課長) 松井 美鈴(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団グループ長)

【交付実績】

NO	申請者名	対象建物	交付額
1	泰有社	泰生ビル	10,000,000

【交付事業内容】

No.1	泰有社	竣工日	平成 25 年 3 月 31 日
対象	泰生ビルの一部 351.6 m ²		
内容	横浜市中区相生町、さくら通り沿いにある鉄筋コンクリート造 5 階建てビルの一部を改修し、NPO や建築家に貸す計画である。入居者は、横浜コミュニティデザイン・ラボ、一級建築士事務所 秋山立花、LWL 岸建築計画室。地域に開かれた場として、地域のまちづくり、文化産業の支援を目的に運営していきます。		

創造まちづくり事業

A. ドックヤードガーデン再活用調査

調査期間	平成 24 年 12 月 5 日～平成 25 年 1 月 31 日
調査内容	<p>創造都市の推進並びに、みなとみらい地区における創造活動拠点の形成を目的に、対象物件であるドックヤードガーデンの創造的な転用をするために調査し再活用について、以下の報告を行いました。</p> <p>①以下に掲げる4つの事業について、ドックヤードガーデンにおける実現可能性を検討し、且つ、それらを適切に組み合わせた活用提案書の策定。</p> <ul style="list-style-type: none">○環境未来都市に関連したクリエイター集積事業○東京芸術大学大学院映像研究科連携事業○みなとみらい 21 地区立地企業交流事業○ギャラリー・スタジオ・イベント機能等整備運営事業 <p>②具体的に行った作業</p> <ul style="list-style-type: none">○調査、空間調査○コンセプトの策定○サウンディング用の資料作成○サウンディング調査 17 社(個人も含む)○提案書の作成 <p>* 結果を横浜市、三菱地所に報告しました。</p>

B. 芸術不動産リノベーション助成制度改正検討調査

調査期間	平成 25 年 2 月 1 日～平成 25 年 3 月 22 日
調査内容	<p>昨年度「芸術不動産事業検証調査業務委託」にて行ったリノベーション助成物件の検証、及び芸術不動産事業の改善の検討の成果をふまえ、芸術不動産リノベーション助成制度の改正の調査検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">○新たなリノベーション助成スキームの検討○建築物の魅力を向上する助成制度(窓面、エントランス等)の検討○ビルオーナーへの専門家派遣制度の検討○民間事業者との対話の場の運営補助(2回程度)○アーツコミッション・ヨコハマと横浜市の役割分担の検討 <p>結果、平成 25 年度の同制度に変更しました。</p>

②創造産業支援

関内外 OPEN!4

<p>横浜の都心臨海部エリアに仕事場を構える建築家やデザイナー、アーティスト等の創造の担い手が主体となって、期間限定で自らのスタジオを一般に公開しました。本事業を通じて、市民に普段は見ることのできない創造の現場に触れる機会を提供するとともに、同エリアに集積する創造の担い手間のネットワーク形成を目的とします。イベントは、スタジオ見学ツアーをはじめ、各種交流会、各催事を行いました。今年は、過去最高の参加団体、来場者数があり、横浜の街全体を盛り上げました。運営には学生インターンと協働して行っています。</p>	
会期	平成 24 年 10 月 26 日～28 日
会場	横浜都心臨海部のスタジオ、アトリエ 26 拠点
プログラム	<p>○オープンスタジオ 建築家、ランドスケープデザイナー、美術作家、グラフィックデザイナー、ファッションデザイナー、ジュエリーデザイナー、写真家、アニメーション作家、映画監督、社会起業家、IT・WEB デザイナー等々、多様な創造的産業の担い手の仕事場を期間限定で一般公開しました。</p> <p>○デザインピッチ 日本を代表するデザイナー11組が10分間という制限の下、プレゼンテーションを行うイベント。</p> <p>○吉田町クリエイティブ！ 吉田町の路上を封鎖し、子どもが参加できるアート創作や、器と花と食を楽しむワークショップ、ジャズ演奏、16mmフィルムによる野外映画上映などを開催。</p> <p>○ツアープログラム アートやデザインの切り口から横浜の街をめぐる。「寿町と石川町の街歩き」「吉田町を通じて横浜道を知るまちあるき」「全てのアトリエを巡れるバスツアー」の3つを開催。</p>
参加団体数	198組のアーティスト、クリエイター
来場者数	2,064名
インターン数	5名
主催	関内外 OPEN!連絡協議会(事務局:横浜市芸術文化振興財団)

横浜創造界隈 アーティスト&クリエイターズリスト作成

<p>横浜都心臨海部に集積するアーティスト、クリエイターを一同に紹介する地図を作成しました。発行元であるアーツコミッション・ヨコハマが運営する「クリエイター・アーティストのための事務所等開設助成」を活用し移転した人、「関内外 OPEN!」に過去に参加され、掲載を許可された人、横浜市と NPO 法人が協働して管理している「初黄・日ノ出町地区(NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター)」、「ハンマーヘッドスタジオ新・港区(BankART1929、新港ピア活用協議会)」を地図化、リスト化し、創造都市のプロモーションに活用しています。</p>	
発行日	平成 24 年 10 月 23 日
内容	横浜市中区、西区、南区の一部地域に集積するアーティスト、クリエイター211組の紹介冊子

印刷スペック	A1 折 A4 サイズ納品 4c/1c 印刷部数 10,000 部
--------	-----------------------------------

③産業振興の協業体制づくり

『my home town わたしのマチオモイ帖』 展覧会

<p>「my home town わたしのマチオモイ帖」は、全国 13 か所での同時開催される展覧会で、横浜では、はじめての参加取り組みです。デザイナーが想いを寄せる街をミニブックや映像で綴り、観客と街の想いを繋げるものです。関東一都六県＋山梨県をテーマにした作品が横浜会場で展示されました。</p>	
会期	平成 25 年 2 月 22 日～3 月 24 日
会場	ヨコハマ創造都市センター、マスマス関内
プログラム	<p>○マチオモイ帖のムービー部門、ミニブック部門の 76 点の展示</p> <p>○トークイベント＋交流会</p> <p>3 月 1 日、ヨコハマ創造都市センターにて、廃財を活用してビジネスと行っている代表や社会起業家を応援するメディアの代表などをゲストとして呼び、トークイベントを開催しました。</p>
来場者数	3,991 名
主催	マスマス関内(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) ヨコハマ創造都市センター、わたしのマチオモイ帖制作委員会
協力	クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町

創造的産業振興モデル事業検討調査

調査期間	平成 25 年 2 月 1 日～3 月 31 日
調査内容	<p>「アーティスト・クリエイター同士や企業・地域とのネットワークづくりによる、新たな価値やビジネス機会の創出」が求められている中、これらをモデル事業として実施するにあたっての事業スキームの検討を行うことを目的とし、調査しました。</p> <p>○市内における創造産業の現況調査</p> <p>○市経済局で実施している関連事業調査</p> <p>ア)創業・新規事業展開支援(市中小企業経営支援財団)</p> <p>イ)中小企業新技術・新製品開発促進助成、 販路開拓支援(SBIR)</p> <p>ウ)知的財産戦略支援</p> <p>エ)市工業技術支援センター</p> <p>○類似制度の調査</p> <p>ア)すみだ地域ブランド戦略</p> <p>イ)台東デザイナーズビレッジ</p> <p>ウ)クリエイティブネットワークセンター大阪</p> <p>○事業スキームの検討</p> <p>ア)アーティスト・クリエイターと企業とのマッチング コーディネート</p> <p>イ)助成制度</p> <p>○創造界限形成推進委員会資料の作成</p> <p>結果を横浜市に報告し平成 25 年度事業内容を検討しました。</p>

(4) 国際的な文化交流の促進

横浜市・成都市 アーティスト・イン・レジデンス交流事業

<p>昨年度まで5年間に渡り横浜市・北京市の交流事業を実施してきましたが、北京側よりアーティストを横浜に受け入れるのみで相互交流プログラムとしての実現には至らず、その継続必要性について議論されてきました。中国にて非営利組織として運営されているアートセンターがほぼ皆無であるのがその理由でしたが、2010年に本プログラムにて横浜に滞在し、横浜トリエンナーレ 2011にも参加したアーティストのスン・リが、中国と日本との交流プログラムの継続を強く望み、この度、彼の紹介により成都にある A4 当代芸術中心(A4 現代美術センター)との交流プログラムの実現に至りました。なお、事業支出は、成都から横浜へ招聘する経費を横浜市側が負担。横浜から成都へ派遣される経費は、成都側が負担しています。(成都側は先方の都合で4月開催です。年度は跨っていますが、当方の負担がないため、当方は年度内の執行となっています。)</p>	
期間	<p>【横浜→成都】平成25年2月21日～平成25年3月22日 【成都→横浜】平成25年3月下旬～5月下旬</p>
滞在制作先	<p>【横浜】ヨコハマ創造都市センター、長者町アートプラネット 【成都】A4 当代芸術中心(A4 Contemporary Arts Center)</p>
内容	<p>【横浜】キュレーター リー・ジェ、ディレクター スン・リを招き、横浜の創造界隈拠点を案内し、各ディレクター、アーティストを紹介。同時に横浜の芸術文化の状況の調査、成都で招聘するアーティストの選定を行いました。黄金町エリアマネジメントセンターにおいて、作家トークに出演。横浜、成都のレジデンス情報を発信するホームページの作成を共同で行いました。これらの滞在成果を横浜美術館にて発表しました。 【成都】今後の開催です。2～3か月程度の滞在后、展覧会を開催する予定です。</p>
主催	Far East Contemporaries、ヨコハマ創造都市センター
協力	NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター、横浜美術館、株式会社デジタルステージ

台北市・横浜市アーティスト交流プログラム 2012

<p>横浜市は、アジアの平和と発展に貢献する都市を中期的な目標として、アジア諸都市とのネットワークづくりに取り組んでおり、台北市とは、芸術文化、スポーツ、高校、動物園、図書館などさまざまな分野での交流を進めています。芸術分野では、平成 17 年度から、芸術家支援の分野などで国際的に豊富な実績をもつ台北市との間で、芸術家を相互に派遣する「芸術家交流事業」をスタートさせ、それぞれの都市から派遣された芸術家が、現地の芸術関係者や市民との交流を深めています。横浜から 1 名のアーティストが公募で選ばれ、台北市に派遣されます。同様に台北市から横浜市へアーティストが派遣されます。本プログラムは、BankART1929 主催で行われ ACY は共催者として負担金支出をしています。この度、8 回目として開催されました。</p>	
期間	<p>【横浜→台北】平成 25 年 1 月上旬～3 月下旬 【台北→横浜】平成 25 年 1 月上旬～3 月下旬</p>
滞在制作先	<p>【横浜】BankART studio NYK、ハンマーヘッドスタジオ新・港区 【台北】台北国際芸術村(Taipei Artist Village)</p>
内容	<p>【横浜】ロ・イチュンを招き、滞在制作、展覧会で作品を発表。 「芭娜娜・バナナ・Saging Banana in Taiwan, Japan and Philippines」 【台北】松田直樹を派遣し、滞在制作、展覧会で作品を発表。 「Clothing / Crossing」</p>
主催・共催	<p>【横浜】主催 BankART1929 共催 アーツコミッション・ヨコハマ 【台北】主催 台北市政府文化局 + 財団法人台北市文化基金会 企画制作 台北国際芸術村</p>

*その他、世界で最も大きいアーティスト・イン・レジデンスの国際会議「resartis」において、これまでの活動をパネル展示しました。

4 収支報告

別表のとおり